

大切です！大腸がん検診

大阪掖済会病院

消化器内科医長 やまもり 山森 かずき 一樹

1. はじめに

大腸がんは、かつて日本では少ないがんといわれていましたが、高度経済成長期から急速に増加してきたがんのひとつです。2001年には、新たに大腸がんになった患者数は毎年10万人を超えるようになっていきます。

また、死亡者数はこの20年間で2倍以上に増え続けており、現在では女性のがん死亡原因の一位となっています。さらに人口モデルを用いた将来予測では2020年までに、新たに大腸がんになる患者数は肺がん、胃がんを抜き、一位になると予想されています。

このため大腸がんを予防することは、たいへん大切なことであり、さまざまな公的な取り組みもなされています。そして、その根幹が大腸がん検診です。しかしながら、検診の受診率はいまだ満足のものではなく、この受診率の向上が課題となっています。

今回は、読者の皆様がぜひ受診したいと思えるように、大腸がん検診の

実際とこのしくみになった根拠やメリットを説明したいと思います。

2. 大腸がん検診の実際

大腸がん検診は、40歳以上の方を対象に便潜血（便に血が混ざっているかどうかを調べる検査）を2日間調べて、どちらかでも陽性であれば全大腸内視鏡検査での2次精検を勧めるというしくみです。便潜血でひっかかる（要精検）方は、およそ5%程度といわれています。費用負担は年齢や市町村によって異なりますが、便潜血が無料から数百円、全大腸内視鏡検査は保険診療での負担というのが一般的です。

大腸の内視鏡検査は、しんどいものだという話しは皆様も耳にされたことがあるでしょう。しかし、最近では楽に検査を受けられるように、鎮静剤を使用する施設も増えてきております。さらに、内視鏡も自在に硬さを変更できるものなど、機器も進化しており、昔ほどの苦痛はないといっただいでしょう。

3. 大腸がん検診の根拠

では次に、大腸がん検診が今のようなくみになったのはなぜかと言いますと、同じようなくみで行った大規模な調査がすでに報告されている

からです。

その主なものとしてミネソタ研究というものがあります。これはアメリカのミネソタ大学が中心となって行った研究で、無作為化対象試験という非常に証拠能力の高い研究デザインになっています。ここでは4万6千人のボランティアが登録され、便潜血での検診を毎年受けるグループ、隔年に受けるグループ、受けないグループに分けられました。平均13年間経過観察され、その結果大腸がんでの死亡を、毎年受けるグループで33%、隔年に受けるグループで21%減らすことに成功しました。

また、同じような報告にノッチングム研究というものもあります。これはイギリスのノッチングムに住んでいる、検診の意義を知らされていない一般住民15万4千人を対象とした研究で、先ほどと同じ無作為化対象試験という研究デザインになっています。ここでは便潜血での検診を受けるグループと受けないグループに分けました。その結果、検診を受けるグループで大腸がんでの死亡を13%減らすことに成功しました。さらにこの研究で注目されるのは、検診後12年経た時点での生存率が、検診を受け

るグループで 75%であったのに対し、検診を受けないグループではなんと 40%まで低下してしまったということが確認されたのです。このことは、検診を受けるという健康意識の向上が将来の生存率にも影響していると解釈されています。

同じような報告は他にもたくさんあり、今の大腸がん検診が大腸がんになるリスクや大腸がんでの死亡率を低下させることは間違いのないものだと考えられています。

4. 再検査

ところで、私達が外来を担当していますと、便潜血でひっかかった方が受診され、もう一度検査して欲しいといわれることがあります。泣きの一回ということです。大腸の内視鏡検査は楽じゃないと聞かされることもあって、できれば避けたいところです。医師として十分理解できますが、これについてはどうでしょう。残念ながら答えは否です。

複数の検査を連続して行い、2回目以降の結果で要精検を判断することは連続検査と呼ばれます。これは便潜血が陽性であれば2回目の便潜血検査を行って要精検を判断する、ということです。

一般に連続検査では特異度（実際に大腸がんがある確率）が高くなるが、感度（大腸がん患者をひっかける確率）は低くなるといわれています。例えば進行がん患者で便潜血が陽性になるのは、およそ 85%程度とされています。逆にいいますと、進行がんでも 15%ほどの方が検査で見逃されることとなります。1 回目で 15%の方が見逃され、2 回目でも同じように 15%の方が見逃されるとなると、検診は成り立ちません。検診は感度（大腸がん患者をひっかける確率）を高めることに重点をおかねばなりませんから、泣きの一回は得策ではないということになります。

5. 大腸がんの予防

最後に大腸がん検診でひっかからないために、皆様が実践できることをお話したいと思います。すなわち、生活内でできる大腸がんの予防です。このヒントは、世界保健機関（WHO）と国連食糧農業機関（FAO）の共同提言の中にあります。この提言では大腸がんの唯一の確実な予防因子として運動、唯一の確実な危険因子として肥満が挙げられています。

適度な運動と肥満の予防、びっくりするくらい基本的な健康法ですが、

とても大切なことが分っていただけると思います。これに加えて、大腸がん検診をしっかりと受けることで、大腸がんにかからないようにしましょう。

大阪掖済会病院

住所 大阪府大阪市西区本田 2-1-10

TEL 06-6581-2881

FAX 06-6584-1807

URL <http://www.osaka-ekisaikai.jp/>